

五行歌



秋山昭子

(藤沢日曜歌会)

すがすがし

白梅の

つぼみ

ふくらみ

一枝の春

浅野征子

(藤沢火曜歌会)

意味も分からぬまま

うたつていた 唱歌

今 意味をかみしめ

くちずきむ言の葉の

うつくしさに よう

新井奈々草

(藤沢火曜歌会)

店子はツバメ

大家は

やきとり屋

身近な平和

ここにあり

飯田敏一

(藤沢火曜歌会)

たき火の中に

サツマイモを投げ入れ

じつと時を待つ

熱々の焦げた芋

灰の中から顔を出す

石川トシ

(藤沢火曜歌会)

奇跡はないだろう  
けれど

布団に入つて思う

明日は違う日

今日よりいい日

石松いさを

(湘南五行歌を楽しむ会)

アスファルト舗装された

散歩道はもう秋

床暖房された廊下を

歩いているかの様に

ほんのりと暖かい

いわきやすお

(藤沢火曜歌会)

春模様の

ピンクのネイル付けて

白秋のオシャレ

指先で楽しむ

ルージュ代わりに

伊東美紀子

牛 島 芳 一

(藤沢火曜歌会)

文字三種：  
世界に希な日本語まれ

漢字、平仮名、片仮名語…

今、カタカナ語が巷に溢れ

加えてA～Zの横文字多数

狭い日本は、何が何やら?!

ゑ み

(湘南五行歌を楽しむ会)

終日コロナ禍に振り廻され  
ゆううつな日々の連續の中  
一変する様な輝き

中秋の名月  
心明るい美しさ!

遠 藤 由 里

(藤沢日曜歌会)

飛行機雲の  
ほどけたあたり

夏の月うつすらと

舞台の袖で出番を待つ

役者のように

岡 本 まさ子

(藤沢日曜歌会)

小さなことでも  
おどろき  
喜んでくれた  
姉は  
とけて消えたチョコレート

小原美子

(藤沢日曜歌会)

老女は早くをハハハバと言う

私は時を巻きもどす

リヤカーをひく老人は

犬にハハハバと

声をかけるやのつ坂

叶多草心

(湘南五行歌を楽しむ会)

バラ咲くたびに

フラワーアレンジ

友人へ届ける

コロナ禍の癒しに

花の力

黒木允

(藤沢日曜歌会)

コロナ禍で

沈んだ気持も

一瞬で吹き飛んだ

娘からの突然の贈り物

「ズワイ蟹三杯」で

花乃香

(湘南五行歌を楽しむ会)

二重ガーゼのブランケット

真夜中の月あかりに透かす

ほんやり見えるお月さま

涙をながす

かぐや姫

古 在 由美子

(湘南五行歌を楽しむ会)

弱気の発言で

「ネガティブ力士」

コロナの秋場所で

優勝を果たした

新大関正代

桜 子

(湘南五行歌を楽しむ会)

残照の灯り

道端に立つ

枯草の根元にとどく

わずかな温もり

芽吹き誘う

清 水 ゆう子

(湘南五行歌を楽しむ会)

(湘南五行歌を楽しむ会)

実 川 緑 映

コロナ禍の中  
会えぬ時間が  
愛おしい  
ラインに踊る  
友の絵文字

イチヨウの木に  
緑葉がいっぱい  
いつしか  
黄葉となり

散りゆく秋

紫 友

(湘南五行歌を楽しむ会)

ベッドの上で目を覚し  
空を見る

家の屋根・ベランダ・木々の枝  
まるでピカソの幾何学模様の  
絵画のような

鈴 木 春 野

(藤沢火曜歌会)

同期会の  
愉しい語り合いは  
郷愁と

昭和の速度が  
共通項

笙

(藤沢日曜歌会)

身をゆだねる  
歓びは遠く  
波音と潮の香に  
包まれる

いまの海の愉しみ

草庵

(藤沢日曜歌会)

娘は昔 私の父親を見て  
「ガンジーミたい」と言つた  
その娘の息子が 昨日  
私を見て

「ガンジーミたい」と言つた

素世

(湘南五行歌を楽しむ会)

暑い夏が過ぎ

色づく柿

梨やりんごの豊饒の声

コロナ禍

季節はめぐりゆく

寺田 篤弘

(藤沢日曜歌会)

風がないのに  
花が揺れるのは

蝶や蜂と  
話しているから、

花は「そうだね」と揺れる

藤堂立夫

(湘南五行歌を楽しむ会)

春の陽を浴びて

風に揺れる窓一杯の新緑

僅かに残る青空と

葉裏の揺れ光る薄緑

小さな窓から溢れん許りの春が

西田 明子

(藤沢火曜歌会)

歩きスマホの若者に  
「オッと、気を付けてよ！」

これ、ヨタヨタ歩きで  
サッと避けられない

自分への怒りでもある

のこり

(湘南五行歌を楽しむ会)

海越しの江ノ島

富士山に日が落ちていく

海岸の人々の影

オレンジ色の絵画の中に収まつて

秋の一日静かに暮れる

橋本圭子

(藤沢日曜歌会)

立ち枯れた蓮

芒も芦も切り払われ

見通し良くなつた公園

カワセミを待つ三脚に

黄昏と寒風

蓮村詳子

(藤沢火曜歌会)

梅雨晴れの空に

ポツカリ 白い雲

「お空も

大きなマスクをしているよ」

と孫が言う

久田文

(湘南五行歌を楽しむ会)

マスクだけどやつと

友だちに会えるんだ!

ピンクのさるすべり

優しく微笑み

うなづいてくれた

正

(湘南五行歌を楽しむ会)

何十年

止められない

栗バカ人生

渋皮煮・赤飯用にと

十キロは買った!!

松 岡 雅 子

(藤沢日曜歌会)

楽しいことは  
すぐに心満たし

いいことは

じわり じわり

水面に広がる

松 本 希 雲

(藤沢日曜歌会)

いのちの

小舟に乗り

それぞれの

物語を紡ぐ

人の一生

村 上 玲 子

(湘南五行歌を楽しむ会)

春の陽射しの中  
ガラス越しに

胡蝶蘭の花二鉢

ほっこりした心で

桜餅と緑茶

茂木知恵子

(藤沢日曜歌会)

こころは ころころ

ころがつて

あつちこつちに ぶつかつて

きよのこころは

いたい いたい

元永和生

(湘南五行歌を楽しむ会)

嫁のため

起きて

ならぬ

老夫婦

朝の音

森本光子

保田孝

(湘南五行歌を楽しむ会)

町内の公園体操

月二回

体は段々弱つてくる

人の名前も出て来ない

でも五行歌だけは作ろう!

秋晴れの日  
芝が刈り込まれ  
鳥が並んでお食事

彼等は天国  
虫達には地獄

安 村 雅 子

(湘南五行歌を楽しむ会)

家の中にできる光の道

猫が丸まる

冬のひだまりに

一緒に寝そべる

太陽がくすぐつたい

山 口 博 子

(藤沢火曜歌会)

手本となる

生き方は

自分が選ぶ

道はどこまで

かたつむり

与 三 郎

(藤沢火曜歌会)

(藤沢火曜歌会)

横 山 礼 子

誠に申し訳ございません

ペコリ

ペツコン

草ボウボウの  
空家の窓に

青々と絡み付いて

西洋朝顔

新しい家主のように

ペコリ

再発防止に努めます

依田常翔

(湘南五行歌を楽しむ会)

秋晴れの一日  
孫達と行く墓参り  
良く来た!!  
良く来た!!  
と・御先祖様は大よろこび